



脱落者は、一体JR総連と共に何を？ どう闘うのか？

脱落者らは、「JR総連と共に」と言っています。でも脱退しただけではJR総連と共にとはなりません。JR総連への個人加入あるいは新しい組合をつくってJR総連に加盟するかです。本紙No.2868によるとどうやら新労組をつくることを画策しているようです。では、新しい組合はどのような目標・要求を掲げて闘うのでしょうか？

これまで森下ら脱落者のJR東海労本部・地本への批判は、「JR総連の指導に従わない」ということだけでした。「従わない」とは、JS労の二重加盟を解消しなかったということにつきます。新しい組合は当然、関連会社においてJR連合傘下の組合から二重加盟ではなく直加盟させるという組織拡大方針でなければいけません。大いに奮闘してもらいたいです。もっとも関連会社に組合員がいなければ絵に描いた餅でしかありませんが。

また脱落者は、これまでJR東海労が取り組んできた年休完全消化、一方的休日出勤反対、遅延時の休憩時間カット反対、診断書強要反対、強制的な転勤・出向反対、管理者のパワハラを許さないなどの数々の闘いについては全く批判的な意見を言っていません。

しかし、彼らはJR東海労は「違う方向に行ってしまった」と言って脱退したのだから、JR東海労のそういう闘いは「違う方向」なのであり、一切やらないということです。

脱落者に問います。JR東海労の闘いに反対し組合運動から脱落したあなたたちは、新労組を結成して何をしようというのか？「闘いをやらない」というのは「方針」ではありません。労働組合を名乗ってもこんなものは労働組合ではありません。JR東海ユニオンと全く同じ、いやそれ以下です。

そんなものが関連会社の社員から支持されるわけがありません。職場のJR東海ユニオンの組合員からも「ユニオンとどこが違うの？」と言われて支持されないでしょう。第一、森下以外はあと1～2年で退職というのに、新労組は存続できるのでしょうか？

新労組に展望はありません。消滅あるのみです。